

5 畜産

(1) 飼料作物

ア 生育経過

全ての飼料作物では、病虫害による影響は見られず、生育は、ほぼ平年並となった。しかし、牧草の2、3番草は草丈が短いまま出穂し、飼料用とうもろこしは登熟が早まるなど、高温・少雨の影響が見られた。また、他の作業との競合もあって、収穫適期を逸する草地やほ場もあった。

(ア) 牧草

1番草は、3～4月は平年より気温が高く推移したが、降水量が少なかったため、生育はやや遅かった。その後、5月上旬頃の降雨により回復し、平年並の5月中～下旬から収穫された。2番草・3番草は、高温・小雨の影響は見られたものの、平年並の生育となった。

一部地域では、高温少雨や夏枯れの影響から牧草の再生が悪いほ場も見られた。

(イ) 飼料用とうもろこし

4月の天候に恵まれ、播種作業が早いところでは4月中旬から行われ、霜の影響もなく発芽も良好となった。高温の経過により生育が早まり、平年より早い収穫期を迎えた。

極端に降雨の少なかった一部の地域では、葉のしおれや枯れが見られた。

(ウ) W C S 用稲

生育に影響は見られず、8月中旬から収穫が開始された。

イ 生産（収量・品質）の特徴、高温・少雨の影響等

すべての飼料作物において、概ね収量は平年並からやや多く、全般的には高温・小雨による影響は見られなかった。しかし、一部地域（ほ場）では、夏枯れや生育不良等の影響が確認された。

(ア) 牧草

1番草は、良質な粗飼料が生産された。2番草と3番草は、品質への影響は無く、収量も平年並からやや多くなった。

なお、一部地域や2番草の刈取り時期が8月上旬まで遅れた地域では、夏枯れや再生草の生育が遅れ収量減少の影響が見られた。

(イ) 飼料用とうもろこし

倒伏や病虫害の発生は無く、生育は良好に推移し、収量は平年並かやや多かったが、極端に降雨が少なかった地域（ほ場）では、葉のしおれや枯れ雌穂の生育不良等により、収量が減少したところが見られた。

(ウ) W C S 用稲

生育期及び収穫時期が天候に恵まれたため品質は良好であり、収量は平年並となった。

(2) 家畜

ア 暑熱対策の実施等

平年より気温の高い日が続いたため、暑熱対策の徹底を図った結果、例年並程度に夏季における家畜の生産性の低下は見られたものの、大きな被害は発生しなかった。

(参考)

高温環境下では、家畜は体温上昇を防ぐために呼吸数や血流を増加させ、エネルギーを余分に消費する一方で飼料摂取量が減少するために、家畜の生産性が低下する。

乳牛では、日乳量30kgの場合、体感温度が19℃を越えると呼吸数が増加するとの報告があるため、湿度にもよるが平均気温が19℃以上となる5月下旬から9月下旬に暑熱対策を行う必要がある。また、暑熱対策の徹底は、最低気温が19℃以上となる例年7月上旬から9月中旬まで必要である。

イ 暑熱の影響

暑熱による家畜への影響は、一般的には乳牛は乳量や乳質の低下、採卵鶏では産卵数の減少、肉用牛、肉豚及び肉用鶏では増体量の低下等が見られる。

過去5年間の乳牛の生産性について、福島県内における牛群検定成績（1頭あたりの検定日乳量（令和6年1月現在））は図1のとおり。

図1 搾乳牛1頭あたりの乳量の推移（平成30年～令和5年度まで）

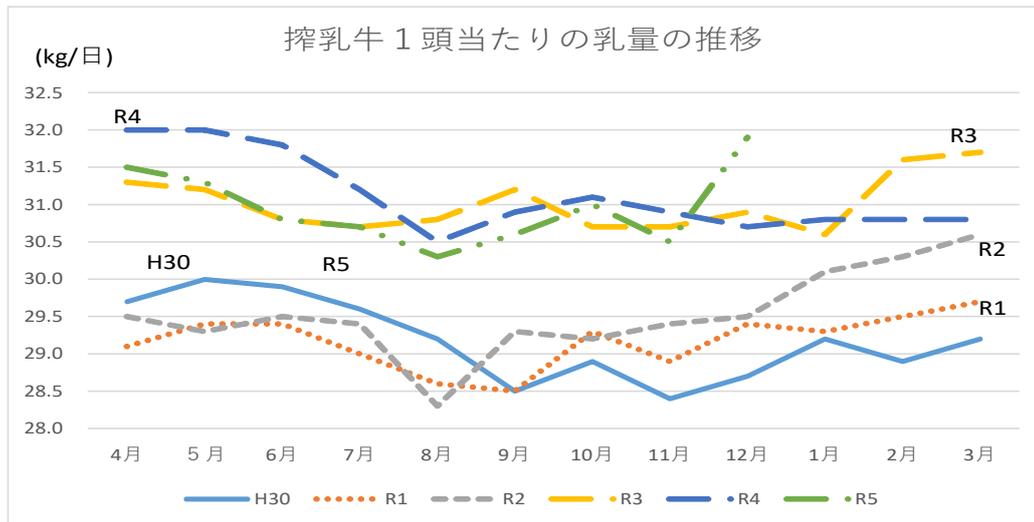


表1 搾乳牛1頭あたりの乳量（前月比）

	7月	8月	9月	10月
H30	99.0%	98.6%	97.6%	101.4%
R1	98.6%	98.6%	99.7%	102.8%
R2	99.7%	96.3%	103.5%	99.7%
R3	99.7%	100.3%	101.3%	98.4%
R4	98.1%	97.8%	101.3%	100.6%
R5	99.7%	98.7%	101.0%	101.3%
平均	99.1%	98.4%	100.7%	100.7%

例年夏季は乳量の低下が見られ、8月頃の乳量が一番低くなる。搾乳牛1頭あたりの乳量（前月比）を確認したところ、8月の過去5年間の平均98.4%に対し、令和5年度98.7%と乳量への影響は例年程度となった（表1）。

また、乳質（乳脂肪率、乳蛋白率）も、同様に低下する経過は見られるものの、全て標準値以内であった。

他の家畜では、増体量等具体的なデータを測定していないが、関係団体や県機関からも特別に家畜の生産性が変化したとの報告はなく、また、暑熱による死亡等の報告もあるが、問題となるほどでは無かった。

なお、農業振興普及部・普及所から、乳牛（一部で肉用牛も）で発情微弱・受胎率等の繁殖成績への影響が見られたとの声が寄せられた。一方、県内の牛群成績平均情報から、令和5年度と令和4年度の2月時点の繁殖成績に係る項目を比較したが、平均空胎日数154日（R4:159日）、初回授精85日（R4:83日）、初回授精受胎率41%（R4:42%）であり、現時点（令和6年3月21日現在）では、本年度の高温が全県的に繁殖成績に与えた影響は確認できなかった。